



shaping tomorrow with you

システム開発における 品質マネジメントワークショップ

【富士通作成演習】

【演習1】

皆様が経験した品質に関するトラブルを棚卸してください。
話せる範囲で構いません。数名の方に発表して頂きます。

【演習2】

皆様が経験した品質に関するトラブルの要因を考えてみてください。話せる範囲で構いません。数名の方に発表して頂きます。

【演習3】

皆様のプロジェクトでは、システムの品質特性を意識して開発を進めているでしょうか。意識している品質特性を挙げてください。数名の方に発表して頂きます。

【演習4】

皆様のプロジェクトのCMMはレベル1からレベル5の中のどの位置に当たるでしょうか。また、そう考えた理由をお考え下さい。数名の方に発表して頂きます。

【演習5】

「品質は上流工程から作り込む」とはどのようなことか、なぜ上流工程から作り込むのかをお考え下さい。数名の方に発表して頂きます。

【演習6】

開発規模と実績値を見て、品質指標値の許容範囲内にあるかを分析してください。許容範囲は±15%とします。

(1)外部設計レビューの品質指標値 指摘件数7件/機能

実績値：機能数32、指摘件数300件の場合。

(2)テスト項目設定密度の品質指標値 45件/1000step

実績値：機能A 開発規模2400step、テスト項目数116件

実績値：機能B 開発規模2800step、テスト項目数102件

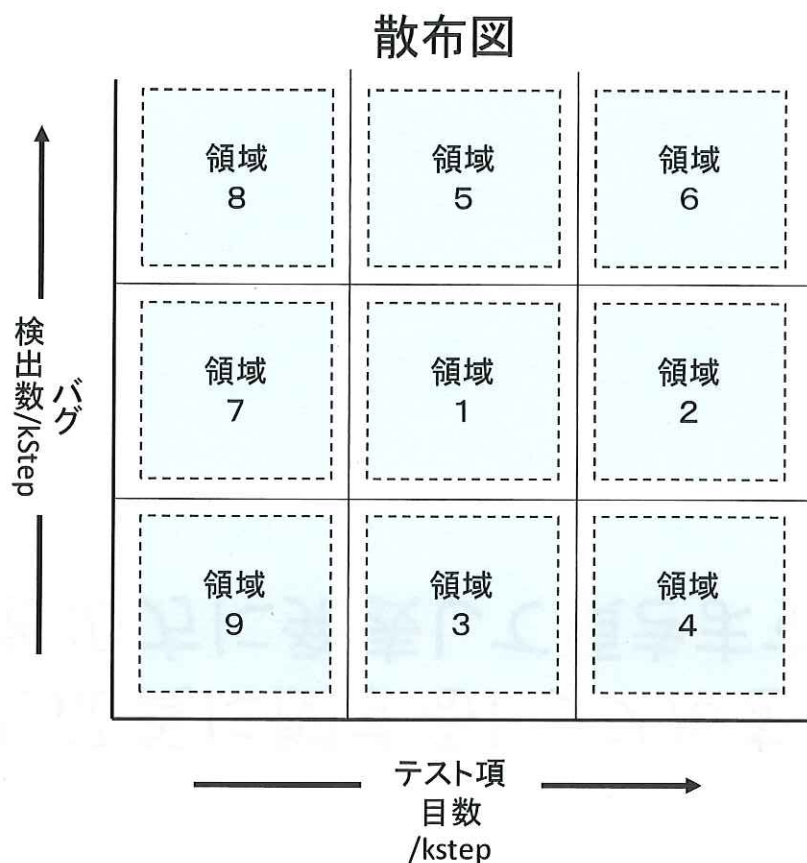
(3)バグ検出数の品質指標値 12件/1000step

実績値：機能A 開発規模2400step、バグ検出数30件

実績値：機能B 開発規模2800step、バグ検出数24件

【演習7】

演習6の(2)と(3)の結果を用いて散布図を作成してください。横軸にテスト項目数、縦軸にバグ検出数として、機能Aと機能Bの点をプロットしてください。



【演習8】

皆様が経験した品質に関するトラブルを根本原因分析してください。数名の方に発表して頂きます。

【演習9】

皆様がトラブルを解決した方法・施策を、どのように次プロジェクト(同一プロジェクトでも可)に活かしていますでしょうか。数名の方に発表して頂きます。

【演習10】

皆様のプロジェクトにおいて、どのような作業の標準化が行われていますでしょうか。話せる範囲で構いません。数名の方に発表して頂きます。

【演習11】

皆様のプロジェクトにおいて、仕様変更・仕様追加の際に適切なプロセス(手順)に従って検討を行っていますでしょうか。話せる範囲で構いません。数名の方に発表して頂きます。

【演習12】

皆様のプロジェクトにおいて、構成管理やバージョン管理に関するトラブルを棚卸して下さい。また、その時の解決策を挙げてください。話せる範囲で構いません。数名の方に発表して頂きます。

【演習13】

皆様は架空のIT企業X社の品質管理部門に配属されている方とします。このIT企業X社の各プロジェクト、プロジェクトメンバー、外部委託者は品質に関して意識が薄く、多くの品質トラブルを発生させています。

現場ではレビューがほとんど行われておらず、発注先からの要件、仕様、規約が遵守されていないのが現状です。また、テストや仕様変更・追加、構成管理、バージョン管理に関して標準的なルールはありません。問題解決も場当たりので、解決策が次のプロジェクトに活かされていません。さらに品質問題があっても原因分析することも無く、次のプロジェクトで二の轍を踏むことが多く、プロセス改善という企業風土がありません。

経営層はこのままでは、信用がなくなり、淘汰されてしまうと危機感を持っています。そこで、全社的な品質向上策を品質管理部門にまとめるように要請がありました。

皆様はIT企業X社の課題を解決する方策をディスカッションして、IT企業X社として社員の品質に関する意識、知識、技術を向上させる方策案を検討してください。

